

学習シラバス

教科	科目	履修学年	コース	履修区分	単位数
地理歴史	日本史B	2	英語・人文	選択	3
使用教科書 ・副教材等	詳説 日本史B 改訂版 (山川出版社) 日本史のライブラリー (とうほう)、ウィングコンパス日本史の整理と演習 2018 (浜島書店)				
学習目標	わが国の歴史の展開を、世界史的視野にたち総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人の資質を養う。				

授業計画

	学習内容	学習のねらい
一学期中間 考查まで	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> 更新世の時代に旧石器文化が営まれ、完新世に入って縄文・弥生文化が展開し、農耕の開始によって国家形成の動きが起こり古墳時代のヤマト政権確立を理解する。 古墳文化を東アジア文化との関連で理解するとともに、その変質は農業生産力の向上にともなう有力農民層の出現によるものであることを理解する。 文字や思想・技術など、渡来人による東アジア文化の受容を大陸情勢とも関連させて理解する。東アジア文化の伝来が日本文化に及ぼした影響について考察する。
一学期期末 考查まで	第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> 蘇我氏滅亡の後、大化改新や白村江の戦、壬申の乱などを経て、それまでの豪族による土地・人民支配に代わって、天皇を中心とする中央集権国家が成立したことを理解する。 律令国家の建設が本格化し、平城京の時代に天平文化が開花する。都が平安京に移ると律令再建の試みが意欲的に進められたことを理解する。 律令体制の動揺のなか、土地制度は荘園・公領制になり、政治は摂関政治から武士の台頭が始まり、文化面では国風文化が開花したことを理解する。
一学期中間 考查まで	第2部 中世 第4章 中世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> 院政期の源平争乱を戦い抜いた源頼朝は鎌倉幕府を開くが、源氏3代将軍ののち、北条氏の執権政治、そして得宗専制政治が展開する。初期は公武二元支配の様相を呈したが、承久の乱を転機として武家が公家勢力を圧倒する。この一連の流れを理解する。 武家政権確立当初、公武の二元支配が行われ、承久の乱後、それがしだいに武家支配に一元化されていったことを理解する。 元寇が及ぼした影響について考察する。
一学期期末 考查まで	第5章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府滅亡後、建武の親政、南北朝の動乱を経て武家社会は成長する。応仁の乱を契機に戦国の世となり、下克上の風潮のもと戦国大名が激しく抗争したが、この時期農民・都市民の成長も著しいことを理解する。 南北朝の動乱を通じてわずかに余命を保ってきた古代的なものが一掃され、封建体制確立への道が開かれていくことを理解する。 室町幕府は守護連合政権の性格と、将軍権力の確立という2側面を持っていたことを理解する。
学年末 考查まで	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ文化との接触や南蛮貿易の活況が政治・経済・文化などに及ぼした影響について考察する。 16世紀半ばのヨーロッパ人の来航を踏まえ、織豊政権が中世末期の戦国争乱を収束して近世の出发点に立ち、徳川氏による幕藩体制が固まり、「鎖国」体制が完成することを理解する。
評価方法	【関心・意欲・態度】 授業態度・ノート整理等 【思考・判断・表現】 定期考查・発表 【資料活用の技能】 授業態度・発表 【知識・理解】 小テスト・定期考查	